

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 未来を見つめながら地域や社会とつながる開かれた学校  
→たのしく 本物に、地域等に、時代の動向に接する教育活動を展開する学校
- 2 個を大切に、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校  
→ゆたかに 小学部から継続的系統的にキャリア教育を行い、児童・生徒の社会的自立を支援する学校
- 3 豊かな学校力を備え、信頼される安全で安心な学校  
→げんきよく 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校

## 2 中期的目標

- 1 《たのしく》 支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての専門性の向上  
(1) 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を促進する。  
(2) 障がいのある児童生徒の特性と到達度を踏まえた指導内容・方法を検証し、授業を改善して質を向上する。  
(3) 地域支援を充実させ、地域の支援教育力の向上に資するとともに校内の支援教育力のさらなる向上。  
(4) 教職員の組織的・継続的な育成のため、校内研修や外部研修を活用して初任者や経験が少ない教職員、及びミドルリーダーの育成を行う。
- 2 《ゆたかに》 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実  
(1) 全(小中高)学部において、キャリアマップを意識した実践をし、キャリア教育を充実する。  
(2) 教員の就労支援に関する実践力を強化し、早期からの企業や事業所等の見学、実習を実施し、進路先の拡大をはかる。  
(3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進。  
\*保護者向け、教職員向けの学校教育自己診断の「進路」に関する項目を毎年3%向上させ、令和4年度には肯定的評価を85%以上にする。
- 3 《げんきよく》 人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進  
(1) 一人ひとりの人権を尊重し、いっそう安全・安心な学校づくりを推進する。  
(2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域やPTAと連携しながら防災教育を実施する。  
(3) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和2年10月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>○【児童・生徒・保護者・教職員を対象に実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒回収率は69%(前年比+2%)、保護者83%(前年比+8%) 教職員100%(前年同様)保護者の回収率が大きく上がったのは、PTA会議や校長室だよりを通じての呼びかけが2年めになったので、保護者に意識してもらうことができたことと考える。</li> <li>・すべての学部で保護者の回収率が上がった。特に高等部は前年より16%もアップした。高等部教員の協力が大きかった。</li> <li>・児童・生徒の回収率がアップしたのも、保護者が提出を意識した結果と考える。</li> </ul> <p>○【児童・生徒の診断における評価率】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6項目中肯定的評価(70%以上)は5項目。(前年度同)①学校が楽しい②先生は困ったときに話を聞いてくれる③社会のルール④給食の項目は80%以上の回答。⑤先生は頑張りを見せてくれるは90%で昨年度よりもさらに好結果であった。特に②③(前年度+7%)⑤(前年度+5%)から、教員が一層児童生徒に寄り添い保護者と連携して適切に指導ができていると考える。</li> <li>・70%に届かなかったのは進路の項目で47%と例年同様の結果である。質問が分かりにくいので、進路というキーワードを入れて質問を工夫することを再度検討し、キャリアパスポートを活用して、進路についての学習をしていることが認識できるようにして、次年度向上するように取り組む。</li> <li>・3年間の経年変化を見ると6項目すべて年々上昇している。</li> <li>・80%以上の項目数は6項目中、H30:2項目、R1:3項目、R2:5項目と好結果であった。</li> <li>・次年度に向けた取り組みは、長期欠席者が数人いるので、長期欠席者の支援を組織的に行うことが必要と感じている。</li> </ul> <p>○【保護者の診断における評価率】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・16項目中肯定的評価(70%以上)は15項目。前年度からアップした項目は10項目あり、90%以上の評価は全16項目の半数にあたる8項目あった。</li> <li>・いじめに関する項目が、64%だった。この項目は、否定的評価は0であり、わからないという回答が36%であることから、いじめについては、</li> </ul>	<p>第1回(7/27)</p> <p>《授業について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業コースの縦割り形式の授業で、先輩が後輩に丁寧に教えている様子が立派。</li> <li>・絵本が教科書としてどのように工夫して使われているのか。</li> </ul> <p>文字情報よりも絵やイラスト等の視覚情報の方が理解を促しやすいことと、楽しんで学習ができる。抵抗が少ない利点を生かしている。</p> <p>《就労について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉就労を含め「働くこと」について担任はどのように考えているか。</li> </ul> <p>事業所に積極的に見学に行き、マッチングができるように学年で考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響でテレワークやWeb会議等が急に導入され、知的障がいのある方には通常の流れと異なるので負担になっていないか。</li> <li>・企業は電話でやり取りして就業・生活支援センターと連携している。</li> </ul> <p>《新型コロナウイルス感染症に関して》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動によってどのようにマスクをつけるようにしているのか。</li> </ul> <p>授業用と給食用の2枚持参。体育は教室でマスクを外して自分の袋に入れてから移動。高等部はほとんどが自分で管理できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更衣室の3密を避ける対応はどうしているか。</li> </ul> <p>更衣室内の人数を6~7人に制限するために、足形を廊下に貼り、順番を待つようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学も支援学校のように視覚的に示している。</li> <li>・通学バスの対応についてどうしているか。</li> </ul> <p>運転席の窓を開け、外気導入の設定をしている。登校時は、乗車前に添乗員が手指消毒をし、下校前は教員が行うことを徹底している。</p> <p>第2回(12/7)</p> <p>《授業について》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚化、構造化されていることに感心した。</li> <li>・連絡帳を読んで知っていたが、実際に参観する機会は大切。</li> <li>・視覚支援は企業でも、大学でも取り入れている。障がいのあるなしに関わらず視覚化を進めていくことは必要。</li> <li>・教員の授業の盛り上げ方がうまいので、企業で就労が定着するには雰囲気作りが大切と感じた。</li> </ul> <p>《新型コロナウイルス感染症と行事の取り組みについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用のため、指導者や周りの人の表情が分からない状況は、将来子どもたちにどんな影響が出るのか心配している。</li> </ul>

その状況にないので、わからないという回答が多かったと予想される。70%に達していないので、肯定的評価に入れていないが、否定的評価でもない。よって、この項目について課題は見当たらないと考えてもよいと考えられる。

#### \*学部別の特徴

##### 特に高評価の項目

小学部：情報発信、教育相談、授業、個別の教育支援計画

中学部：情報発信、個別の教育支援計画、進路

高等部：情報発信、進路、個別の教育支援計画

・全学部とも、情報発信の項目である「子どもの様子や必要な事項を懇談会や授業参観、連絡帳、便りなどによって発信している。」という質問についての回答結果は、小学部 100%、中学部 95%、高等部 96%の回答であった。今年度は、家庭訪問がなく参観の機会が減ったが、毎日の連絡帳や電話等でお知らせができたことがよかった。また、毎日の HP アクセス件数が平均して、在籍者数の約 30%あり、随時更新していることがアクセス数の向上につながっていると考えられる。

・学部別の結果から、小学部は、日々の生活に関する項目が特に高く、中学部には、進路の項目が入り、高等部は進路が一番高い評価であることはキャリアマップを意識してキャリア教育を進めている結果と考える。

##### ○【教職員の診断における評価率】

・今年度新規項目を3つ追加。①学校納付金②事務室との連携③保健室との連携

・19項目中肯定的評価（70%以上）は、17項目。

・70%に達しなかった項目は①②

・会計担当や行事の担当者が公費の扱いについて理解していない事柄がある。

・会計や行事の担当者でなければ事務室と連携する機会がないので「わからない」の回答が多かった。

・改善のために、行事計画の説明時に公費の扱いについて学部会で話題にして考える機会をつくることで、学校納付金についての意識を高めさせる。

・17項目中90%以上の評価項目は9項目、80%以上は6項目、70%以上は2項目だった。

##### 特に高評価の項目

「児童・生徒の学校での様子を、連絡帳や便り、HPで積極的に伝えている」

「児童・生徒の健康状態について保健室と教員で共有できている」

「児童・生徒の人権を尊重し、いじめや体罰、不適切な指導を見逃さない体制を整えている」

・情報発信は、保護者の結果にも表れている。

・安全・安心、人権尊重、不適切な指導について教職員の意識が向上した。

・ストレスチェックの職場評価結果が3年間で 119→117→112 と改善

してきている。さらに改善するように働き方改革をすすめたい。

・保護者の立場から、行事が実施されていることは大変ありがたい。

・感染対策と行事の実施は判断に迷うがこの協議会のつながりで情報交換ができることは大変参考になる。

行事は工夫して実施することを教職員と確認しています。保護者様にも協力をしていただいております、感謝しています。

《学習評価の様式変更について》

・評価の3観点は、大変いい。企業でも参考にします。

・積み重ねを評価する観点があるのは良いこと。

全学部統一の様式にして、12年間の学びの記録になるようにした。

昨年度から観点別評価については話題にしており、今年から本格実施した。

教員は様々な面から子どもたちを評価する力が必要なので、スムーズに変更できた。

第3回（2/8）紙面開催

《令和2年度学校経営計画評価》

・就労率の目標値達成だけではなく、働き続けることを意識した取り組みも大切にすることを継続してもらいたい。

・コロナ禍の中、工夫をして教育活動をすすめた結果が表れている。

・多くの項目で目標が達成できているので、教職員全員が頑張ったことがわかる。

《令和3年度学校経営計画》

・ICTを活用した授業実践が新たな支援教育の発展につながると思う。

・コロナ禍の中、問題点ばかりでなく、新たな対応から生まれた工夫をさらに発展させていくことが重要と感じる。

・中学部50分授業、キャリア発達段階の領域を意識した指導は、自立や社会参加に重要なことと思う。

・欠席が続く児童生徒の支援はとても大切なので計画に入っていることは良い。

・アレルギーなしの「みんなの給食」は、みんなが安心して食べることができる良い食育だと思う。

委員全員から承認をいただいた。

《令和2年度進路状況について》

・コロナ禍の中、高等部卒業生の進路指導の苦労や課題の共有を全教職員で共有することが必要。

・希望通りの進路先に決定できたのは、キャリア教育や自立支援の成果と感じた。

《学校教育自己診断について》

・コロナ禍の中、前年度から複数項目で肯定的回答がアップしており、年々評価がアップし、保護者の満足度が上がっていることから、教職員全員が努力している結果と感じる。

・「学校が楽しい」「先生は困ったときに話を聞いてくれる」の項目が高い回答であることは、緊急事態時においても学校教育をストップさせることはできないことを表していると思う。

・いじめの分析について設問の工夫を図ることで、正確な状況把握につながり、より高い信頼関係が構築されるものと思う。

・課題を含めしっかり結果を分析しているようなので良い。

・児童生徒が、学校生活が楽しいと肯定的評価が高いのがうれしい。

・ほとんどの項目で高い評価を得られていることから学校運営が着実に行われていると感じる。

・保護者の肯定的評価が最も高い、連絡帳やお便りでの情報発信により、保護者は安心して学校に通わせることができている。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 学校教育自己診断 <sup>児生</sup> ：児童生徒向け <sup>保</sup> ：保護者向け <sup>教</sup> ：教員向け	自己評価
《1だのしく》支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての専門性の向上	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の促進。</p> <p>ア 教育支援計画様式更新。 イ 個別の指導計画は、目標と指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2)障がい特性に応じた指導内容・方法の構築。</p> <p>ア 授業改善及び質の向上。 イ ICTを活用した授業。 ウ 情報リテラシーの育成。</p> <p>(3)地域及び校内の支援教育力向上。</p> <p>ア 地域支援の充実。 イ 支援教育理解講座やケース会議の開催。 ウ 教育情報の提供。</p>	<p>ア. 首席、進路部、支援研究部が連携して、移行支援計画、キャリアパスポートを含めた新様式で実施する。 イ. 完成したシラバスをもとに評価の3観点を明確にした記述。</p> <p>ア. 研究授業の充実。 イ. 校内研修、公開講座、実践報告会実施。 ウ. 生徒、保護者に対して外部講師を招いて研修を実施。</p> <p>ア. コーディネーター、リーディングスタッフの訪問・来校相談、ケース会議のアドバイスを充実させる。 イ. 校内支援の充実。学部を越えてケース会議を実施する。 ウ. OT、PT、ST、SCを含めて支援教育に関する情報の提供。</p>	<p>(1) ア. 新様式を1学期に完成させる。 イ. 評価の3観点が分かるように起案する。 ・<sup>教</sup>「個別の教育支援計画、個別の指導計画」に関する項目 80%維持。(H29:74%、H30:81% R1:80%) (2) ア. 研究授業を10回以上実施。(H30:13回、R1:17回) イ. ICT活用者70%以上。(R1:60%) ウ. 参加者アンケートで関心が高まったかどうか確認する。 ・<sup>教</sup>「授業」に関する項目 90%維持。(H29:88%、H30:88%、R1:90%) ・<sup>保</sup>「授業」に関する項目 85%以上維持。(H29:85%、H30:85%、R1:90%) (3) ア. 訪問・来校相談回数 60回。(H30:65回、R1:42回) イ. 年度内課題を80%以上解決。 ウ. 専門職のアドバイスを学部会で共有して、指導に役立てる。学部会記録で、確認する。</p>	<p>(1) ア. 様式を完成させて、今年度から全学部が新様式で記入した。(○) イ. 3観点をア、イ、ウとして表記し、保護者にそのことを説明した。観点別評価により児童生徒を多方面から評価することができている。<sup>教</sup>R2:83%(◎) (2) ア. 学部を越えて授業見学があった。この取り組みを継続したい。R2:11回実施(○) イ. 77%(◎) ウ. 高等部対象に実施。保護者対象は、コロナの影響で未実施。生徒の評価は概ね理解できた。<sup>教</sup>93% <sup>保</sup>94%(◎) (3) ア. コロナ禍で臨時休業等があったが、訪問52回、来校42回(○) イ. ケース会議をはじめ、学年会や、外部機関と連携することで概ね80%以上解決できた。(○) ウ. 共有して指導力を向上させている。(○)</p>
《2ゆたかに》自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実	<p>(1)全学部において、キャリアマップを意識してキャリア教育を実践する。</p> <p>ア 自己肯定感を有する児童・生徒の育成。 イ 全学部において、高等部卒業後の進路先である事業所や企業について学ぶ機会をつくる。</p> <p>(2)高等部の就労支援に関する実践力を強化。</p> <p>(3)障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進</p>	<p>ア. 児童・生徒が、自分の得意不得意を知り、得意を伸ばす取り組みを行う。 イ. 進路部が夏季休業を利用して、全校の教員向けに事業所や特例子会社等の見学会を実施する。</p> <p>(2)2年生職業コースの学級編成の変更。学年進路が中心となり、学年全体で就労支援を実施。</p> <p>(3)文化芸術活動にも積極的に参加する。また、スポーツの課外活動に加えて文化芸術活動も継続。</p>	<p>(1) ア. 学期ごとの総合所見で管理職が確認 ・<sup>児生</sup>「進路」に関する項目 48%→50%(H29:44%、H30:37%、R1:48%) イ. 参加者数は全体の80%目標。 (2)就労率は職業コース生徒の70%(R1:100%) (3)課外活動の定着。毎月開催。コンクール出品、校外の大会、発表会に参加。</p>	<p>(1) ア. 総合所見で得意を伸ばして、自己肯定感が高まるような取り組みをしたことが確認できたが、その取り組みが進路に関するものであると、児童生徒が認識するには至っていなかった。キャリアパスポートを使って進路学習の意識づけを行うようにする。<sup>児生</sup> R2:47%(△) イ. コロナの影響で2社のみが受け入れ。受け入れ人数の100%参加(○) (2)100%(○) (3)コロナの影響で多くの対外試合が中止されたが、放課後活動や作品出品は行うことができた。(○)</p>
《3げんきよく》人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進	<p>(1)人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校。</p> <p>(2)危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域やPTAと連携しながら防災教育を実施する。</p> <p>(3)機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。</p>	<p>ア. 人権研修を実施して不適切な指導がないように取り組む。 イ. 参加体験型研修の実施。</p> <p>ア. マニュアルに基づき訓練を実施して、課題を解決する。 イ. PTAや地域と連携した防災の取り組みの実施。</p> <p>ア. 首席、部主事、分掌長、学年主任を軸とした情報共有の迅速化と徹底 イ. 風通しのよい職場づくり ウ. メールを活用した情報共有の推進</p>	<p>ア. <sup>保</sup>「いじめ」「障がい理解」に関する項目 77.5%→80% H29:83%、H30:79%、R1:77.5%) ア・<sup>教</sup>「防災」に関する項目 85%維持。(H29:70%、H30:78%、R1:85%) イ. 地域、PTAと連携した訓練の実施。(R1:6月に1回実施)</p> <p>ア. 部主事・首席会を活用して学部間の情報共有と部会記録の管理職への回覧。 イ. ストレスチェックの指標 117→115 ウ. 開封率 80%以上</p>	<p>(1)ア. <sup>保</sup>「いじめ」64%否定的評価は0%、わからない36%から、いじめについては実情からわからないという回答が多かったと予想される。<sup>保</sup>「障がい理解」91%(○) ア. <sup>教</sup>86%(○) イ. 2回実施 12月メールでの安否確認訓練 80%参加。1月引継ぎ訓練 45%参加(◎) ア. それぞれが連携して迅速に情報共有ができた。部会の活用により職員会議の時間が短くなった。(○) イ. 112(○) ウ. 100%(○)</p>